和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内のヘビ・トカゲ類
Snakes and lizards found in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in Shirahama, Wakayama, Japan

久保田 信[1]・玉井済夫[2]　Shin Kubota[1] & Sumio Tamai[2]
[1] 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459）
[2] 〒646-0028　和歌山県田辺市高雄 1-25-18

はじめに

和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内（面積 40630 m²)で、畠島を除き、過去 22 年間の期間中に観察されたヘビ・トカゲ類について、写真とともに報告する。

結果と考察

京都大学瀬戸臨海実験所構内でこれまでに報告された 2 種(ニホンカナヘビとニホントカゲ:玉井, 1983; 興田ほか, 2000; 久保田, 2004）に加え、今回、これまでに実験所関係者や利用者などにより撮影された 2 種を含め、和名のあいうえお順に計6種を紹介する(図1–4)。

ジムグリ *Elaphe conspicillata* (Boie)（図 1）
図書館の西側の壁面で座安佑奈氏が 2013 年 10 月 3 日に生体を発見・撮影。体長は約 20 cm。幼蛇。

シロマダラ *Dinodon orientale* (Hilgendorf)（図 2）
楽学荘前で安岡法子氏が 2015 年 7 月 30 日に発見・撮影。体長 51 cm。成蛇の死亡個体。

ニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides* (Schlegel)

ニホントカゲ *Plestiodon japonicus* (Peters)

ニホンマムシ *Gloydius blomhoffii* (Boie)（図 3）
北浜出口の門前で 2014 年 4 月 25 日に頭部を切断され死亡を久保田が発見・撮影。体長は約 20 cm。

ニホンヤモリ *Gekko japonicus* (Duméril & Bibron)（図 4）
瀬戸臨海実験所研究棟入口で 2010 年 9 月 7 日に生体を久保田が発見・撮影。

図 1. ジムグリ（生体)。

図 2. シロマダラ（死体)。

図 3. ニホンマムシ（死体)。

図 4. ニホンヤモリ（生体)。

図 5. 番所崎先端のアオダイショウ *Elaphe climacophora* (Boie) (2011 年 6 月 27 日に発見・撮影）（生体)。

京都大学瀬戸臨海実験所構内のすぐ西側にある番所山からは 7 種の爬虫類が紹介されており（南方熊楠記念館, 2015）、この内の 5 種が構内産と共通種である。今回の記録にあがってないアオダイショウやシマヘビも構内に生息しているものと推察される。その理由は、ノラネコが黒くて長さ約 1 m の 1 個体をくわえて海岸道路を横切ったり、正門手前で 1 m 以上の個体が急に飛び出して自家用車で尾を轢いたり、楽学荘内で夜にシーツを頭からかぶり就寝中の外来研究者の上を通過などの 3 例がこれら 2 種に相当すると推察される。

なお、久保田は番所崎先端の磯にいたアオダイショウと一度だけ遭遇し撮影した（図 5）。また大雨時に、波打ち際で漂着物とともに実験所“北浜”の砂浜に潜んでいた生きたマムシに遭遇し、飛びかかられて危険だった。

謝辞

貴重なデータと写真などをお知らせ下さった座安佑奈氏と安岡法子氏に深謝します。

引用文献

久保田 信. 2004. 爬虫類を捕獲したイソヒヨドリ（ツグミ科）. くろしお, (23): 52.

南方熊楠記念館. 2015. フィールドミュージアム番所山自然観察ガイドブック. 34 pp.

興田喜久男・久保田 信・疋田 努. 2000. ニホンカナヘビとニホントカゲ（有鱗目, トカゲ亜目）の連続死. くろしお, (19): 11–12.

玉井済夫. 1983. 和歌山県におけるシロマダラについて. 南紀生物, 25(1): 76–78.